

西成区「あいりん地域のまちづくり」 第8回労働施設検討会議 議事概要

1 日 時 平成28年6月24日(金) 午後7時00分～午後9時00分

2 場 所 西成区役所 4階 4-6会議室

3 出席者

(有識者3名)

福原大阪市立大学大学院経済学研究科長

寺川近畿大学准教授

ありむら釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長

(行政機関13名)

大阪労働局 大谷会計課長補佐、五代儀職業対策課長補佐、ほか2名

大阪府商工労働部雇用推進室労政課 地村参事、芝課長補佐、ほか2名

西成区役所事業調整課 室田課長代理、狩谷係長

(地域メンバー18名)

西村萩之茶屋第1町会長

川村萩之茶屋第2町会長

吉田萩之茶屋第4町会長

茂山萩之茶屋第9町会長

野間萩之茶屋第10町会長

田中萩之茶屋社会福祉協議会会長 萩之茶屋第5町会長

松繁釜ヶ崎資料センター

山田大阪府簡易宿所生活衛生同業組合理事長

山田NPO法人釜ヶ崎支援機構理事長

村井西成区商店会連盟会長

山田NPO法人サポーターズハウス連絡協議会代表理事

中岡公益財団法人西成労働福祉センター業務執行理事

吉岡釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表

本田釜ヶ崎反失業連絡会共同代表

山中釜ヶ崎日雇労働組合委員長

野崎全日本港湾労働組合関西地方本部建設支部西成分会代表

稲垣釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長

水野日本寄せ場学会運営委員

4 議 題

労働施設の耐震化について

5 議事内容

(1) 主な議事の概要

《前回のやり取り》

有) コスメ跡地の移転可能性はもはや無いと確認済み。

有) 居場所については大阪市福祉局からご説明頂いたとおり。5月に昼間の居場所をオープンした。

かなり広いスペースで使用できる。ただ、5時から9時までの時間について質問があったが、街の状況を踏まえて検討したいと福祉局より回答をいただいた。南海高架下の耐震については事務局より本日回答していただく。

今日は、南海高架下の具体的なシミュレーションをもとに、本格的な議論を進めていきたい。

仮移転議論を行い、整理しつつ本移転の議論を進めていきたい。

前回、仮移転場所を南海高架下とするということで持ち帰りいただき、それを前提に中身の提案がほしい、まちづくり会議への報告を決定したいと申し上げた。

本日は、検討会議において仮移転場所を正式に決定したい。

《南海電鉄高架構造物の耐震について》

有) 課題として、南海高架下の耐震性が残っている。事務局から回答をお願いします。

事) 南海電鉄だけでなく、近畿運輸局にも足を運び確認した。

まずは南海より同社の耐震補強についてご回答をいただいた。(読上げ)

センター仮移転先となる場所は、国交省の通達に基づく補強の対象外である。

対象となる柱は順次耐震補強を進めているとのこと。

次に、 I_s 値については南海電鉄と併せて近畿運輸局に確認したが、鉄道構造物には I_s 値を用いないということであり、基準を資料にて説明する。(資料説明)

有) 南海高架は一般の建物ではなく、 I_s 値は用いていない。

それに代わる方針が国で定められており、それに従って南海では耐震の対応しているということ。

・) 震度はどれほどまで耐えられるのか。

事) 阪神淡路大震災のときで震度7で、これをもとにその後の方針が設定されている。東日本大地震も7だったが、(曲げ破壊先行型の高架) 倒壊などの被害報告は無いとのこと。

・) あの建物は1961年。この度の南海高架下のエリアはセンターより古い。

柱も目で見て細い。センターと比べてもはるかに脆弱だと思っている。阪神大震災の後に補強したというならわかるがそれもせずに大丈夫だと言うのか。

事) センターについては、耐震において上部との繋ぎ目が弱いことはご承知のとおり。

柱の太さは耐震と関係ない。太い柱の I_s 値が0.2ということではない。

曲げ破壊先行型は、力が加われば曲がるが、瞬間的な崩壊はしないということで、少なくとも人命にとってリスクが高い瞬間的な崩壊は避けられる。

また、曲げ破壊先行型で構造的に鉄骨が入っている。

よって、そもそも強化したとかそういうものではない。

・) 中に建物をつくるのであれば、中に事務所を入れるわけだから逆に I_s 値が必要なわけではないか。

事) 土木構造物の耐震に I_s 値を用いていないのは国交省の通達のとおり。

一方、我々が中に何かを建てる場合、建築物については当然 I_s 値に基づいた

ものになる。

- ・) 想定しない壊れ方をするのではないのか。阪神大震災のときの高速道路のように。
- 有) そういう壊れ方をしたのが構造的（せん断破壊）なものだということ。
そしてこれを経験してからの国の方針、補強になる。
あとは、南海の回答を信用するかどうかという話。
我々としてはこれ以上答えられない。いかがか。
- ・) 信用などできない。
- ・) いずれにしても仮設の期間の話。野原にプレハブを建てるより安全である。
- 有) では、これでご理解いただきたい。

《南海高架下での仮移転シミュレーション》

[間取り案について]

- 有) 大阪府の仮移転先から。
400人ぐらいが特掃輪番で集まる。
待合スペースは600㎡ぐらい。労働者が集まる場所は天井を吹き抜けの案にした。
南海へインタビューへ行ったが、壁は取り払い開放的な空間になる。
端のレンガはいい雰囲気なのでそのまま活用し、サロンにする案として示した。
- ・) 階段はいくつあるのか。
- 有) 2箇所取れる。
- ・) 店はどうするのか。朝ごはんを食べるところが無いと困る。
- ・) 喫茶店はやっているか。
- 有) もうやっていない。
- ・) シャワーはどうするつもりか。
- ・) シャワーの利用者数は如何ほどか。
- ・) 一日平均で言うと現在80人ほど。
- 有) シャワーについては本移転の時のことも含めて議論した方が良い。
- ・) とりあえず仮設についてはシェルターでのシャワーで辛抱し、本設で考えるということが良いのではないか。
- ・) センターは現状どれぐらいの数のシャワーがあるのか。
- 事) 15ほど。
- 有) 他にもそんな形でどんどん要望を出してほしい。
- ・) 食堂は3軒は開いている。
- ・) あとは、新聞販売店と売店がある。
- 有) コンビニの出張販売とかも良いかも知れない。
- ・) 商店の店員は、モノを売るだけではなく、利用者の健康状態とかも見ている。
- ・) 要するに、付き合いが長くて顔なじみになっているということである。
モノが揃っていれば良いということでも無い。

[駐車スペースについて]

- 有) 次に車の課題について検討した。
串刺しにできるか、店舗等の前はどうかという問題もあるが
時間帯を限定して駐車するといった運用方法を検討する必要あり。
現状施設の駐車スペース利用としては40台から60台と聞いている。

高架下の場合、縦列駐車となると厳しい。38台がマックスになる。

もう一つの懸念は、工事中の停め方。

50台、60台となると、周辺含めて他に停める場所はないのか、うまく駐車できるような良い方法、時間帯分け等も含めた良い運用方法はないのか、というところ。やり方によっては48～57台は停めれるようになる。

ただし、30台が適切な数字なのか、60台という数字が正しい数字なのかという部分については議論していかないといけない。先ずこれがたたき台である。

・) 道路に駐車場を想定することについては大丈夫なのか。

事) 調整は現在進めている。道路占用許可となる。

道路の駐車スペース化については、市や警察に相談したところ、詳細はこれからだが、大筋は了承の方向であった。

有) 台数は具体的にはまだであるが、使うことについては調整を進めている。

・) 自転車駐輪場と同じ。

・) 縁石などは必要か。

有) それもこれからである。ラインを引くのか。それとも縁石を置くのか。

・) 今の業者の使い方ではそのようにキチっとした柵を作っていない。

有) 大きく駐車スペースとして、大雑把な使い方でもいいかも知れないが。

・) 柵をきちんと設けた方が良くと思う。

・) 路上求人にならないか。

有) そうならないようにしなければいけない。

有) 現金求人は本設に向けて新しい求人のやり方をここで検証したいと考えている。

・) 労働者と業者の相対であり、センター職員の前で求人が行われるわけではない。業者と労働者が各々でやっている。

・) 今の形が良いというわけではない。だからこれをキッカケにしたい。

有) 今後、そういった工夫をしていくということである。

・) 実際に労働者はセンターの求人車から何人ぐらい仕事に行っているのか。

・) 今はみんな電車で行っている。

・) それであれば駐車場は要らないのではないか。

・) 何人がセンターから車に乗って行くかということであればそうかも知れないがセンターがつかんでいる数字はあくまでセンターで行われている求人の部分。センターの営業時間外である夜中にも実際に求人がある。

4時には求人活動は終わっている場合もある。

時期によって変わるが、夜中センターが開く前に200人ほど行ってる場合もある。もちろん、夜中に求人求職している状態は正常とは言えないが。

はたしてこれを仮移転先に持ってこれるか、であればどうやって持っていくかということを考えなければ、これだけの駐車スペースをとっても意味がない。

顔なじみや、電車で行く人も確かにいる。そういう労働者は実際には見えない。

仮設・本設含め、そういう部分をどれだけ取り込めるかという方向へつながるように議論していかないといけない。

見えている数字だけでなく、こちらから積極的に見ていかないと見えない部分。

本設だけでなく、仮設も含めてやっていかないといけない。

・) あいりん職安はこれから何をしたいこうとしているのか。

事) これまでどおり機能を維持していく

- ・) 裁判で言われている。仕事もこれから紹介していくのか。
形だけでは仕方ない。

有) 南海高架下を仮移転先として使うにあたり、提案、問題提起をいただいた。

楽観的と見られるかもしれないが、現在の機能を100%維持するのは無理だとしても、寄り場機能として仮移転先が機能を発揮すると私は思う。

たくさん課題はあるが、持ち帰って次回より提起していきたいと思う。

あわせて本移転の議論をする。

機能としては、日雇い労働者にとって役立つ、使いやすいものにしていきたい。

また、現在センターを利用していない人たちをも惹きつけるような魅力あるものにするのは大切だと思う。長期的にはそれは無視できないと考える。

そういう部分も踏まえて今後ご意見をいただきたい。

労働だけでなく町会のみなさんからも地域の活性化からという観点からもご提案いただければと思う。

以上をもって、南海高架下を仮移転先として進めるということでご理解いただきたいと思う。

《労働施設検討会議としての意思決定について》

- ・) 我々は、不本意ではあるものの南海高架下でやむなしだろうと考えている。

ただし本設を見据えて仮設について考えるのであればということ。

ただ、もう一方の意見もあって、南海高架下について、今の時点で仮移転先として認められないというもの。理由は、労働行政がどのようにしたいかということが見えてこなかったもので、将来どのようにしたいか示してほしい、ということだった。

有) ひとつ質問するが、これまでの議論はどういう位置づけだとお考えか。

これだけの人が集まり、時間をかけ進めてきたこれまでの議論は不要ということか。

- ・) 私が言ったことではない。

有) では誰が言ったのか。

- ・) 私である。南海高架下は、仮移転先の可能性の一つだと考えている。

有) 仮移転先が空間的に狭くなるのが問題だということか。

- ・) そうではない。本移転については担保されていない。

本移転の話が無い中で仮移転の話が進んでいくことについて危惧している。

仮移転がそのまま本移転となるのではないか。そういうことだと思う。

知事が担保しているから信用はするが。

本移転の構想が出されないと、信用できない。

- ・) これまでの不信感をどうやって拭うかということ。

事) 知事の決意。現地での建て替えについて、いささかのゆるぎもないということはこれまでお伝えしてきた。

これで行政を信用して欲しい。ご理解いただきたい。

将来的なところとしては委員からあったように本移転の話に分けて議論を前に進めていけたらと思う。

- ・) 中身の話をしていないではないか。

有) これは中身の話だ。中身の話をこうしてやっているではないか。

- ・) 西成特区構想の中で、バラ色の夢の本移転の話が語られた。
橋下市長も座長もいなくなった中で、この会議と労働施設の行く末について誰に預かった決定権なのか。私にはわからない。
- 有) この会議は架空の会議ということか。
- 市) この会議はあいりん地域のまちづくり会議の専門部会ということで内容を本体会議へご報告いただく。当然大阪市としてその内容を最大限尊重する。これが前市長の発言であり、この会議の意思決定を担保するものである。
- ・) まちづくり本会議の日程はどうなっているのか。
- 有) まちづくり会議に市長は来られる予定である。
この検討部会は労働行政として府や国が深く関与しているが、まちづくり全体としては市の責任で行っているもの。
そして市がここで決まったことを尊重していくと聞いている。
反対意見もあると思うが、この会議としては南海高架下を仮移転先として決定する。もちろん、本移転の中身については以降具体的に検討していきたい。
- ・) 行政が決定する、ということについては気にしない。
行政が行政として責任をもって決定するのであれば何も言わない。
だが、私が賛成して、私の名前で決定したということではない。
- 有) この会議として、「これが望ましい」ということを決定するということである。
- ・) 賛成多数で決めたというのであればわかるが、全体で決めたと言われたら困る。
- ・) 今日決めないといけないという話ではないのではないか。
病院が移転するのに5年もかかるのだから。
- 有) 病院が最後まで残っているということがそもそも問題なのだ。
- ・) 病院が遅れているから労働施設の方も決めなくて良いということではない。
労働施設としては、現在地を更地にし、南であれ北であれ全部であれ、また使うという構想のもと、いったん仮移転すると決めたのである。
そうであれば、病院がいつまで残っていたとしても、南から先に壊していこうという議論はできる。順番に、いけるところからいかないと仕方ないではないか。
- 有) これだけのメンバーを毎回集めて時間を割いていただいて、安全を早期に確保しなければならない中、住民の意思をできるだけ反映させて決めていこうということでこれまで進めてきた。
決定できるものは決定して行政に予算をつけさせるという思いを持ってやってきた。こうして大きな決断をしたのである。
住民がこれだけ集まっている中、ここで決められなくてどこで決めるのか。
- ・) 我々の仕事となる部分もあるかも知れないが、こういった会議の議論や意見を、利用者へ還元していないのではないか。
そういう手続きを、プロセスを踏んでいないのではないか。
- 有) 完全ではないかも知れないが、これまでずっとボトムアップ型でやっている。
- ・) 何が何でも反対しているわけではない。
45年も労働市場を守ってきたのは労働者だ。
労働者にもうちょっと配慮があってもいいのではないかということ。
その建物を壊すのに、何のメッセージも配慮もないのはどうか。

有) それはおっしゃるとおり、今後は情報提供しながら議論を進めていくことは大切であると思う。

一方で、早く決める必要があるということをご理解いただいていると思う。

決定という言葉はあえて使わない。

この会議の多数の方々の意見として、「労働施設の仮移転先を南海高架下とする」ということで取りまとめたことを、まちづくり会議へ報告する。

・) それで結構。

【まとめ】

- ・ この会議の多数の方々の意見として、「労働施設の仮移転先を南海高架下とする」ということで取りまとめたことを、まちづくり会議へ報告する。
- ・ 仮移転先、本移転の中身の議論を行っていく。
- ・ 今後の会議内容の情報提供、アナウンスについて検討する。

6 第9回労働施設検討会議の日程について

次回検討会議 → 7月21日(木) 午後7時00分～ (後日、開催を案内。)